最優秀賞

tvkかながわMIRAI賞

カラフル

川崎市立柿生中学校
一年　大久保　歩

あなたは「障がい」をもっていますか？あるいは、「障がい」をもった人が周りにいますか？私は、私自身が「障がい」をもっています。他の人より少し聴力が弱く、補聴器を使用して日常生活を送っています。そんな私が障がい者として感じていることを伝えます。

まず、あなたは「障がい」と聞いてどんな事を思い浮かべるでしょうか。「障がい」と一括りにいっても様々な種類があります。これらを大きく分けると、「身体障がい」、「知的障がい」、「精神障がい」の三つになります。私の場合は聴力なので、一つ目の「身体障がい」に当てはまります。

この「障がい」をもって生活するうえで、私が困ったり、悲しくなった出来事をいくつか

紹介します。

先に述べたとおり、私は補聴器をつけています。この補聴器は、よくイヤホンと間違えられてしまいます。小学一年生の子と接したときのことです。「歩ちゃん、イヤホンつけてる！いけないんだ」と言われました。相手はまだ小さいので説明しても理解してもらうことができませんでした。誤解されたのが悲しかったし、そのことを上手に伝えられなかったことが悔しかったです。他にも「それ、何？」と何度も聞いてきたり、補聴器をとろうとされたりと、対応に苦労することがありました。

また相手の話を聞きとれず、何度も聞き直すこともあります。それでも、結局何を言っているのか分からず、何度も聞くのが申し訳なくなって、それ以上聞き直しませんでした。そのせいで話が噛み合わなくなってしまい、きちんと聞きとれない自分に腹が立ちました。他にも同じような経験がたくさんあります。

このような事を知ると「障がい」があると嫌なことだらけだと思うのではないでしょうか。しかし、実はいいこともあります。

あなたは骨伝導や、あえて雑音が流れている中で音を聴きとるなどの特別な聴力検査を受けたことがありますか？これを私は、小さい頃から続けています。つまり、みんながしていない経験をしているということです。私は、これをすごいことだと思います。それはみんなが知らない世界を知っているからです。

社会には「障がい」をもつ人に対して、距離をおく人がいます。それは、分からない、知

らないことに対するとまどいなのかもしれません。

でも、私はこう考えています。「障がい」は「優劣」ではなく、単なる「違い」です。そしてこの「違い」は「個性」です。私の場合は、「聴力が弱いこと」です。一見マイナス思考に傾いてしまいますが、これは私にとって宝物です。なぜなら、これのおかげでみんなが知らない世界を知ることができたからです。これがなかったら今の私はなかったと言い切れるほど大切です。あなたにも「個性」はあります。視力が弱い、人と話すのが苦手など。これらはすべて、欠点ではなく「個性」です。そのため、とまどったとしても近づく努力をするべきだと思います。まずはよく見てください。そして、相手の立場になって物事を考えてみてください。そうすれば相手の気持ちが分かるようになると思います。その上で行動してほしいです。

そして、このことは「障がい」の有無に関らず誰に対しても同じです。最初はできなくても、相手を知ることで、自分の世界が広く豊かになり、それが人生をより鮮やかにしてくれるのではないでしょうか。